

<「知るっば!久留米」 令和4年2月24日(木) 12:30~放送分>

## 三漕地域の魅力 ～第4回～ 「三漕においでよ」

<ゲスト：くるめ創業ロケット 創業支援相談員 北村嘉伸さん>

坂本 MC (以下「坂本」)

「知るっば久留米」ナビゲーターの坂本豊信です。

今回は、久留米市の南西部に位置する『三漕地域の魅力』をテーマにお送りしています。

ゲストはこの方です。

ゲスト:北村さん(以下「北村」)

こんにちは!三漕に住み続けて65年。三漕のことならおまかせの北村嘉伸です。

よろしくお願ひします。

坂本 いよいよシリーズ最終回となりました。

今回は『三漕においでよ』という観光情報などのテーマでお送りします。

まずは、三漕といえば酒どころ。各蔵元ではどんなお酒が造られているのですか?

北村 現在、三漕地域には、旭菊、池亀、萬年亀、杜の蔵の蔵元4社があり、お手頃価格の上撰酒から、夢一献や山田錦を酒造米とした純米酒や吟醸酒が製造・販売されています。

毎年開催されてきた、九州最大級の「城島酒蔵びらき」では、三漕の酒蔵も開放され、多くの皆さんに新酒の飲み比べを楽しんで頂いておりましたが、

今年はコロナ禍で昨年が続いてドライブスルー方式で実施をしました。

早く新型コロナウイルスが収束し、にぎやかに開催できることを心から願っております。

坂本 ここしばらくは、新型コロナ対策で自粛ムードが強いですが、

早く前のような賑わいを取り戻したいですねえ。私も是非またお邪魔したいです。

北村 今年は開催されたんですが、本来の形ではできなかつたですからね。

コロナ禍で各蔵元では大変ご苦勞をされていると思いますが、美味しくて、特色ある酒造りを頑張っていっちゃいます。

蔵元からの購入もできますし、ネット販売もされていますので、

お好みのお酒を楽しんでいただければと思っています。

坂本 三大酒どころとして名をはせた歴史がありますからね。

北村 三瀧を含めた城島町一帯は、江戸時代末期から昭和30年代頃までは、東の灘、西の城島と言われるような酒どころでした。明治期に旧三瀧郡が制定され、その範囲は、現在の久留米市南西部から大川市が含まれていました。旧三瀧郡で蔵元が増え、日本酒づくりが発展するにつれ、これらが一つの酒造組合に属していたことから酒造業界において城島町・三瀧町を中圏域として「城島の酒」と呼ばれるようになったそうです。三瀧地域で酒造りが盛んになったのは明治中期からで、大正10年には酒造場として10の蔵元があり、城島の酒の一翼を担っていました。特に、明治20年頃、池亀酒造の蒲池源蔵さんを中心に、「東の灘」に劣らぬ芳醇な醸造に成功されたそうです。

坂本 このシリーズの2回目の放送でお話に出てきた、三瀧の酒米も使われているのですか？

北村 そうですね。夢一献は、平成15年に開発された品種で、福岡のブランド米「夢つくし」を親に持ち、草丈が90センチほどで短く、倒れにくいということで、山田錦より栽培しやすく、安定した収量が得られるという特性があるそうです。三瀧地域は、夢一献の栽培が盛んです。JA三瀧での令和3年産の作付面積は約100ヘクタールで、全量が購販売連などの系統を通じて、県内蔵元の酒米として納入されているようです。三瀧の蔵元でも純米酒や吟醸酒の酒米として、たくさん使われています。

坂本 話は変わって、公園も充実しているそうですね。ビギナーの人でも気軽に立ち寄って、楽しめる公園についても教えてください。

北村 三瀧地域には全体で約6ヘクタールの「水沼の里2000年記念の森公園」があります。この公園は三瀧地域のほぼ中央部にあり、住民の憩いの場所として整備されました。約3ヘクタールの芝生広場の周りには、内回り500メートル、外回り700メートルの遊歩道があります。また、西側には遊具も整備されていますので、健康づくりと遊びの場として、お子さんから高齢者の方まで、多くの方が利用されています。私は住まいが近いので、この公園でのウォーキングを日課にしていますよ。

坂本 それは何より。健康づくりが一番ですね。

北村 公園には、210円で入館・入浴できる福祉センターの「ゆうゆう」が隣接していますし、道路を渡ればトレーニング機器が充実した「みづま総合体育館」や図書館を併設した「生涯学習センター」に「B&Gプール」、「運動広場」などの施設が連なる形で整備されており、駐車場も充実しています。

スポーツ施設は個人でも団体でも、目的に合わせて低額で利用できるのも、三潴以外からの利用者も多いようです。私も、利用者の一人として満足しています。

坂本 まさに、ぎゅっとコンパクトに充実した施設が集中して、遊び、学習、運動が楽しめるんですね。

北村 三潴地域のことについて、もう一つお話ししたいことがあります。  
旧三潴町時代に、農地の基盤整備で造られた大きなクリークと西牟田エリアの老朽ため池の補強工事に併せ、全町公園化構想としてポケットパークと遊歩道を整備しています。  
特に、三潴特産の黒松に囲まれ、桜の名所でもある十連寺公園を起点に、五つのため池を結ぶ遊歩道が整備されています。  
途中には東屋（あずまや）や水上公園、それに高級宿泊施設の「ふかほり邸」もありますよ。  
春と秋はとても気持ちよく歩けますし、坂本さんも一度行かれてみてはいかがでしょう？

坂本 公園は何度もうかがいましたが、なかなかいい景色でゆったりした雰囲気がありますよね。  
ふかほり邸はまだですが、ぜひ行ってみたいと思います。  
4回にわたって、三潴の興味深いお話を伺ってきました。  
改めて、三潴の魅力のまとめをお願いします。

北村 あくまでも私個人の三潴感ですが、本当に住みやすい地域になったなと思います。  
子供の頃は、田んぼばかりで商店街もないし、活気のない町のように思っていたんですが、この65年間で町は大きく変わり、特に久留米市に合併してからは新市建設計画事業が進み、人口が増加するとともにスーパーなどの店舗も増えてきました。  
中央部には西鉄電車が走り、東部にはJR鹿兒島本線の電車が走るという、公共交通の利便性もありますし、生活しやすい地域になったのではないかと思います。  
あとは、大木町と城島地域との境界に流れる「山の井川」がここ数年頻りに氾濫しているんですが、流域の内水氾濫による水害が起きないようになることを望んでいます。

坂本 北村さん、さすが元広報マンらしく、きれいにまとめて頂き、どうもありがとうございました。  
さて3月は、春休みに向けて、今話題の人気スポット「鳥類センター」をお届けします。  
お楽しみに！